

写真家の父ちゃんが、2歳の息子にあてた
旅先からの手紙

父ちゃんから
の手紙 ⑧

Letter from
Dad



林太郎へ

しとしとと雨が降っています。それでも山は久しぶりの雨を喜んでくれるようです。赤や黄色に色づく山の木々の中で、ひとときわ輝いているのが、熟れた柿たちです。山のあちこちに濃いオレンジ色の柿の実がぶら下がっています。

父ちゃんはお正月に飾る「くし柿」で有名な和歌山県伊都郡いとに来ています。あいにくの雨で柿を干す作業はお休みですが、お陰でいいことがありました。山道を歩いていると、おばあちゃんが雨宿りを勧めてくれたのです。おばあちゃんは柿のことを、そして、父ちゃんは林太郎たちのことをたくさん話しました。帰り際、おばあちゃんが袋いっぱい大福をくれました。お誕生日を迎える林太郎へのプレゼントだそうです。よかったね、林太郎。

※くし柿は、柿を長い竹ぐしに横並びに刺して干した物で、正月の鏡もちの飾りとして使われます。

公文健太郎 (くもん けんたろう)

写真家。1981年生まれ。国内だけでなく、ネパールなど海外の被写体をテーマに作品を撮り続け、写真集やエッセイ、写真展などで発表している。2児の父。<http://www.k-kumon.net/>